

13号線の橋下に到着する。

下降開始(13:40)——13号国道(15:50)

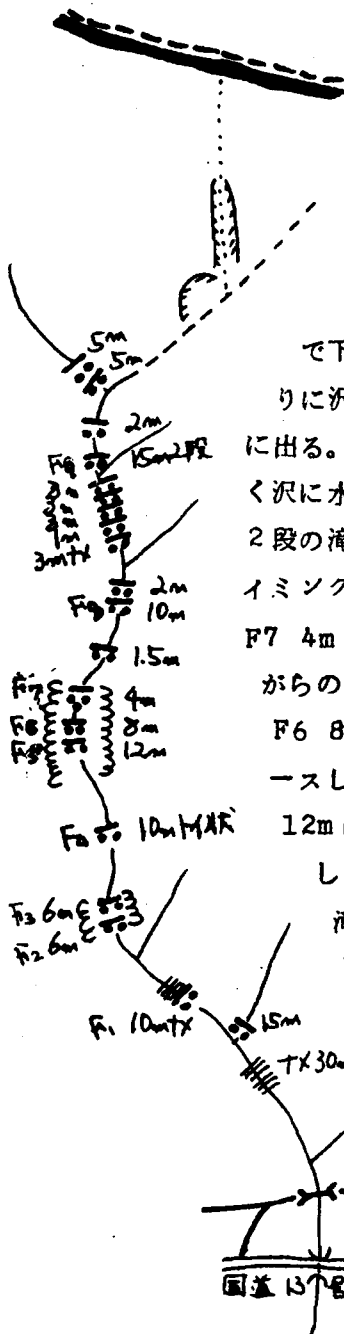
新沢左位 1981年8月29日

三ッ橋沢(仮称)

L

子。

枝並実好



三ッ橋沢(仮称)
(作区)

下降を始めて15分程でガリーになった。これを沢まで下る。沢に降りる所はスラブ状になっており、木をたよりに沢に降り立つ。ガレ石や倒木にうまった沢を下ると二俣に出る。左の方は5m滝が2つある。この二俣になって、ようやく沢に水が出てきた。下りはじめるとすぐ滝が出てくる。15m 2段の滝を除くと、あとは3mほどの小さなもので、すべてクライミングダウンでパス。左岸より小沢が合流した先も滝が続く。

F7 4mは右岸よりを木を伝いながらのクライミングダウン。

F6 8mは左岸よりをトラバースして岩棚を下り、続くF5

12mはそのまま草付を降りた。

しばらく下ってF4 10mナメ

滝。3段になった滝で、上部と下部が右岸よりにカーブしたト

イ状の滝。「流しそうめんにしたら良い所じゃないか。」などと話す。

ここまでは両岸

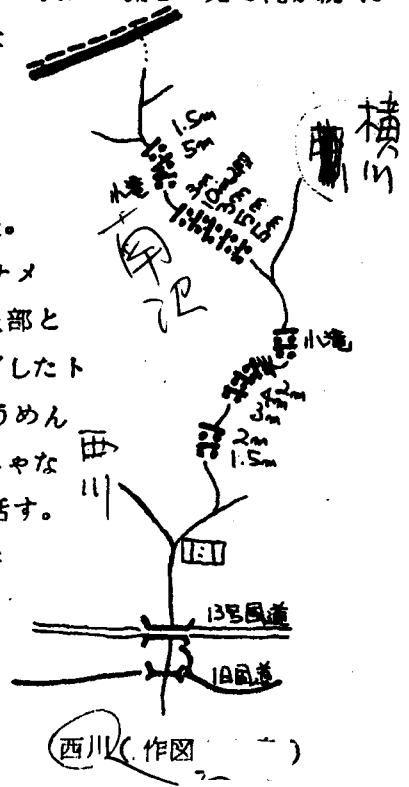
がV字状で岩質であった。

ここより少し

下るとF3 6

mとF2 6m

が現われる。F3は直瀑で、左岸をヤマブドウの



西川(作区)

つるにつかまりながら降りる。その下のF2はナメ滝でなんなく通過。左岸より15mの滝をかけて小沢が合流した。そしてそのすぐ先に橋ゲタが出てきた。地図にある橋ではないが、もう沢は終わりに近い。軽く腹に入れて歩きはじめる。すぐ左岸から支沢が入り、旧国道の橋。13号国道は目の前だった。(記。)

下降開始(14:35)——13号国道(17:15)

摺上川流域の沢 1981年の記録

吾妻につづく我が会の地域研究の第2弾は摺上川流域である。この地域は高い山こそないが、非常に奥が深く、沢の数も多い。地味なだけに、ほとんど資料らしい資料も得られず、自力で開拓してゆく楽しみがある。

本年この山域で、夏合宿の時に遡行した12本の他に、いろんな時期に計10本の沢に入った。それらを紹介しよう。

白根沢

1981年5月31日

I

白根沢入口に車を置いて遡行開始。きれいな冷たい水だ。10分も歩くと最初の小滝が出てきて、そのあとナメとなる。白根沢の特徴はこのナメにあり、途中部分的に途絶えることはあっても、ほぼ源流まで続いた。右に左に小さな屈曲をくり返す沢を登ってゆくと、左岸によく手入れされた跡跡が出てきた。部分的にコンクリートの石積みなどがあって、造林用として、あるいは農業用水の管理用として、ひんぱんに利用されているようだ。8時45分、取水ダムに着く。半分こわれかけた小規模な取水ダムである。左岸の跡跡は、ここから幾分不明瞭となったが、まだ先へのびている。よく育った杉林の中をぬけて、9時丁度、地図に水線のある最初の支沢(仮に白根一ノ沢とよんでおこう)出合に着く。滝の出でこないのがさみしい。「こんな岩質なんだから、傾斜さえついてくれば滝になる。」と先に望みをたくす。9時20分、2番目の支沢(仮に白根二ノ沢とよぶ)出合。あいかわらずナメの連続だ。左岸からガレ沢が2本合流する。どちらも、碎石として今すぐ使えるような大量の土砂を、白根沢にむけて押し出してきている。やがて、植林後10年程を経過した杉の若い造林地に着く。かすかに続いていた跡跡もここで終わっている。またしばらくナメを歩くと、右